





416  
52

# 曲亭 翁編 次八 犬傳 第九 輯



狗寶 又ヌノ

輯 柳川重信画

南總里見八犬傳第九輯下帙之上附言

有人云在昔里見氏の安房小起りて後上總を略し又下總をも半分討從り有  
れ安房の小園を其發迹地とて今も世の人推並て安房の里見といふも  
然と更の這書の名につて南總里見とて便是本と捨て只その末と取る所似る故ある  
いふとと詰問れ予答て云否子今論る所の後の稱呼の從のよ上れる代の制度と考  
る安房の素是總國の郡名之邈古天富命更求沃壤分阿波齋部率  
往東土播殖麻穀好麻所生故謂之總國上總下總二國是也  
阿波忌部所居便名安房郡國是也と古語拾遺の古事記並書紀  
景行紀の東の淡水門を定めりて是也  
景行五年冬十月 天皇上總國到  
淡水門を渡りて是也  
元正天皇の養老二年五月乙未上總國  
は平群安房朝夷長狹四郡と割く安房國と置ぬ  
聖武天皇の天平十二年十二

八代傳乙集卷之三

文溪印發



月丙戌安房國と元のどく上總國を併せぬかて。孝謙天皇の天平寶字元年五月乙卯安房國舊來依々分ちらる。書紀及續紀に於て是より一々後の安房と上總と二國を論ず。まは安房も初に總國に當時里見氏の威徳と史料を以て相傳へてその封域といふ者二百二十七萬石と云房總志料第五卷安房の附録に是を不中々里見九代記に據るる里見の領地の義堯より義弘迄八所安房上總並下總半國是を加ふと浦四十餘御あり此彼を合しても七十萬石の尙元ざるは土人の口碑に傳る所何れも本に於ていふ所然といふ維七十萬石元ども大諸侯と稱するは只然れは起本の國といふもかくの如し小説に編小の安房と云。里見の二字は冠するべからし又房總と倡へるは浦四十餘御あり因て南總と云はる地廣大に相聞を唯上總の限るはらむ。這書に載るる里見父子の賢明當時の雙れは南方に藩屏第一の大諸侯と云。よと看官の中ありせんとし作者の用意素もかくの如し知を僻言するんか。

本傳第九輯の初の腹稿より卷の數の二と云々より第九十二回より第百三回までの六巻と九輯の上帙と。第百四回より第百十五回までの七巻と中帙の上下と。今板第百十六回より第百二十五回までの五巻と下帙の上と。是より下も尚物語云れ亦復十巻と兩箇を登て下帙の中下帙の下とて明年二度の續出はべし。八犬士及八犬女の端像。俗に是を口画と云。第二輯三輯より再々是を出して今は遺漏すといふも或は総角の折の姿と寫し或は微賤の折の趣あり。其真面目と云はるは足らぬ。今又是を出せり。あは亦も惟伏姫の生前死後の神體まで。曩に端像を出さるは茲より省せり。七犬女と重出せり。中濱路沼菖雜衣の既鬼籍の入り。此の墨色と異ふ。綉像同くからしむ。又彼神女の贊詞の如し。琴籟君子の麗藻あり。因て、大と贊する五絶と俱亦簡端の餘紙に録し。

天保七年丙申秋九月下澣立冬後的一日 蓑笠渙隱識





南總里見八代傳第九輯下套上摠目錄九集第  
三版

卷第

第百十六回

賢士重知犬士  
政木肇詳政木

之四

第百十七回

答恩化龍示升天  
問津犬童惱風壽

卷第

第百十八回

兩國河原南客逢北人  
千三畷師弟屠姦媼

卷第

第百十九回

說來路次團太附驥尾  
盡餘談親兵衛促扁舟

卷第

第百二十回

傳命令使臣正征伐  
庸一葉窮士償前愆

十六

第百廿一回

天資神祐劈石門牢戶  
大江親兵衛破魔夷賊

卷第

第百廿二回

讓勲功親兵衛赴法會  
後賞祿安房侯温寒御

十七

第百廿三回

小乘樓一僕謁故主  
大庵十僧資法筵

卷第

第百廿四回

守師命星額齋遺骨  
受殘捨癘僧告禍鬼

十八

第百廿五回

逸正寺德用與二三士謀  
退職院未得名詮諫不得

八代傳第九輯下套上目錄終下套中下二帙陸續刊行





幼稚義村莊義心凌毒手在泥不染  
泥市土耀人口 賈太川義任

依義失雙實  
逢靈全兩英  
誰知仙境任  
花樹受恩榮  
賈音音

音音  
かと松

大川義任  
かた松



磨劍不忘親寬仁王  
佐器堂堂好男子到  
處伏新吏  
賈天塚成考  
寒蟬懸蠶網新月落  
圓陵更託同名女貞  
冤結赤繩  
賈濱路

前後而濱路  
かた松

天塚成考  
かた松

六代信九郎卷之三十四

六代信九郎





越赴忠魂子積年凌百憂  
英風誰敢敵一箭貫金兜

變姿知幾處智勇最  
冠州牛閣返重恨鈴  
森討久雙贊大山  
忠與天阪亂智

大山忠與

天阪亂智



劍法阪東一勇威  
不可當拾骸庚申  
嶺補孝赤岳鄉  
贊大飼信道

一時離而羽思患  
六年間歡喜且憂  
苦共維倚富山  
贊妙真

大飼信道

戶山妙真





馱馬倒山路姊妹咫尺間  
若非神妙助爭得到仙寰

又  
仙山逢舅姑夜  
徑見古丈姊  
依神助相  
鳳雛

十條力三郎

曳手  
ひくく

單節  
ひの上

十條尺八

八代傳九郎卷三十四

六

文樂堂藏



一拳撲野豬雙手  
駐物拈謙遜不曾  
誇其名轟世界  
贊大田悒順

心血成良藥眼前救一雄悲風花落  
處不料得神童 贊沼蘭

沼蘭  
おの

大田悒順  
おの

山林  
おの

八代傳九郎卷三十四

文樂堂藏







鍾動從猛物 為淚滿羅裳  
 亂富士雨落英 蓮八方伏見  
 攝統却成華 法衣長遊俗  
 歷遊二十年 終總八行玉法師大  
 右抄贊一十七首 叨題奉撰 簡端以  
 款於四方 君子雅鑒

琴瑟壇史



南總里見八犬傳第九輯卷十三之十四

東都 曲亭主人編次

第百六回 賢士重々大士と知る 政木肇て政木と詳む

再說大江親兵衛仁の尺中も足る及鐵扇とて河鯉佐太郎孝嗣が最も劇よく較り又  
 尖と受流一相柱を挑戦ふ至妙の武藝不孝嗣秘術と盡せも毫も差違ひなき事なり  
 憶中聲と被て登り少年姑且昔ね問をありと叫び身と跳りて圍籠の外退き喘を  
 定め刃と鞭不斂親兵衛莞尔と立ち笑ひ思ふに優る和殿の大刀筋何ぞ雌  
 雄と決せざるか問うされては是れとよ和殿の為体人を揃りて貨財と奪ふ騙見るとは  
 必是响馬前刃徑と事とせし又那麻生の松孺の亞流るんとありしとて較り果さず欲  
 せし聲力凡庸をむして矢庭に我身と換換し投石も奪い奪の勢い世も少なき村正義



光妻鹿孫三郎と云ふ。及ぶ加旗武藝精妙絶々數寸の扇子を以て我大刀風を扇返す。神術奇特の事上奇に和殿の懐より一道の光明赫奕と閃出づ散徹あり。只我眼と遮りてかば。朽惜くも腕見狂ひ。大刀筋安定る所れ心驚駭に訝し。徳ハ刃と歇めり。意不和殿人倫を奪ふ我死を救ひ給。箆の刀自の等類狹權者の化現狀狽狸妖怪怨念の解は甚摩を。同ハ親兵衛うち領を。疑ハ然と云ふ。酒家の妖怪変化する。実を諦せ和殿等一途窮達不定の孤客。這頭と遊歴あるもの。我名ハ。酒家の和殿が相識。毛野道節節の七武士と。同因果の義兄弟。大江親兵衛仁と喚做も。今茲九歳の総角られも。童年才小四の秋より。伏姫神の擁護より。安房は富山の神崇崇人となり。甲斐あり。心術支身長き見ゆる像大人。備く。文学武藝。姫神小侍授せられ。然るの本事を。料もぬ比。世の復出。時を。國王神父子の奉為不寇。夷け敵と降。その功より。寵用せ

上總の館山の城を。隨預けられ。故ある事。幾日も。君の丸見妙。餘の武士の在。一箇も送る。領て来よ。猛可身の暇を賜りぬ。我も亦同因果の義兄弟。先。單國主は。本意。一談小及。領當。伴當。一個も。投方。程。一。旅。這頭。上野の松蔭。茶店。一霎時。立寄。疲勞。憩へ。里人。群立。走。前面。頭を。那罪人。見んと。慌。相罵。思。茶店の老媪。所以。老媪の。詳。刃心。城内の機密。送。告。然。酒家富山。伏姫神の示現。和殿親子の忠誠。孝義。知。下。今。又。老温。の。所。具。酒家。情地。思。那孝嗣。忠。高。暖の對陣。道節。毛野。們。感嘆。と。刃。交。相別。傳。慨。侮。人。們。誣。罪。及。罪。命。殞。及。憐。不。猶。餘。非。如。我。這。身。其。死。極。治







わび武藝の程を知らし上り見殿へ汲引せん外を求るといと意束と告て慰されは  
 孝嗣深く感佩しと然る天々るる四下とるる聲を惜めて原来和殿の大匠們  
 那七勇士と宿因ある大江生であつけるる那人々の義兄弟八名ありとぞ高嶽の  
 對陣子大塚生きたる虧れ和殿の上の沙知らざりし神の擁護の靈山にて生有ゆれと  
 少く思ひ合する奇特の靚面今茲九歳の総角とて誰う知る身長三心術三  
 大人備て智略勇力武藝まで現神々々鳥傑今昔を雙とらるる神靈傳授の  
 大刀筋るる敵かたも然るる方僅刀と合せ折奇れ和殿の懐より光と發ち  
 粲然と我面を撻けるは必是所以ありとて親兵衛うち所疑ひも鮮易り我  
 黨より八犬士の自然と獲る靈玉ありとて八顆の玉母の仁義礼智忠信孝悌這  
 八行の文一字あり天造地作の寶貝ありとて厄と釋は雙と征する第一の身の衛られ  
 優るものあり就中我持する仁の二字あり仁と名告るもこれ由れり曩は富山とて

折獨館山の城不赴とて逆將墓田素藤と生拘ら凶徒を降し城を拔れ我靈  
 玉の威徳ふれり信れ和殿と挑し折の自然と光と發ちるる速莫館山の城を  
 ありとて那兇黨が降伏の爲と告ふる言詳るるゆれありとて思  
 れ又只我上のる七犬士們が才幹言行安房侯老候御父子の明德賢と愛し民を  
 極善政限るる施しあり賢君良佐の事の崖略伏姫神の靈驗威徳の世も復ゆる死  
 奇談も鮮示さす思へも這里久恋の園ありとて卒の上野の原まで退て迭不意  
 衷と盡まべるといふ孝嗣再議を覃を現るるれがその理あり物蔭も死這池畔  
 多く長譚小時を程さる谷中二們が稍醒と立ちあがり争何せん非如そのありとて  
 忍心固るる遠くは一步も快退くと上策とて死の卒さくとも連立く上野の原不  
 来不けれ親兵衛遙指して河鯉生よ那老松を片食りて建ふ葭葦を折  
 遠くもい嚮小我憩ゆる老媪の茶店でゆるる和殿の身の皮の囚牢衣を去向の



外視宜かき。今日殊ゆる温暖るれば。我下衣の一箇脱く。裏て腰の纏るあり。且  
 那里より。あをまわらせん被ぬのま。とふを孝嗣とて。そち又ぬく好意あり。  
 知己の隨意せむらんや。と然ひ答く共侶の茶店の茶店も。それの意の蒼柴烟の立  
 ども何地ぬけん老媪の在る。然びと。茲より外亦媪ふ。家へ。一垂時等るを  
 かの来てんと思へ。兩個の後生の。儘裏面入。折る。由。葎實を掖送り。外  
 視之憚る。目柴も。俱茶を汲。ち喫く。親兵衛の腰の附。袂裏より被死て  
 衣を會て。孝嗣。卒と。遞與。其孝嗣の受合。ち戴。多。多。上。襲被。身  
 装を。これ。あ。の老媪の。も。還。わ。な。儘。登。見。尻。楓。て。親兵衛と。俱。媪。ひ。く  
 在。登。時。大江親兵衛の。孝嗣。ち。向。ひ。御。會。話。漏。た。る。身。の。禍。福。伏。姫。神。の。眞  
 助。撫。育。并。姥。雪。老。夫。婦。曳。單。節。母。子。の。事。及。七。犬。士。の。事。の。趣。の。裏。の。姫。神。の。眞  
 られ。ち。随。一。事。の。省。且。里見殿。父子。の。賢。明。四。家。老。諸。勇。臣。の。行。狀。得。失

素藤が叛逆の顛末まで。その要の演敏系と。其女と。箇様々々と。情語を。示。せ。孝嗣を  
 听。毎。連。り。感。嘆。の。聲。を。浴。断。む。憶。も。太。息。を。吻。く。連。愛。た。諸。犬。士。の。孝。義。英  
 才。始。在。下。君。父。の。與。大。阪。生。を。恨。み。其。の。僻。事。と。悟。り。より。更。不。捨。死。思。ひ。あ。り。  
 矧。今。又。其。の。義。兄。弟。大江和殿。不。解。近。く。其。の。身。の。資。助。も。る。り。過。世。あり。歎。息。中。奇  
 り。任。ち。八。個。ち。揃。い。ぬ。焦。問。傑。連。は。宿。縁。あり。君。臣。の。義。と。結。ぶ。せ。る。里見殿。而  
 侯。の。年。來。の。德。澤。仁。政。听。く。宗。伯。と。名。將。も。う。ぬ。羨。む。べ。し。ち。心。を。慰。む。と。只。管。嘆。賞。ま。て。れ。ば。  
 親。兵。衛。の。聲。を。惜。め。て。御。向。中。も。既。に。い。け。し。我。君。侯。の。賢。を。招。死。士。下。り。ぬ。を。り。く。老  
 殿。の。死。時。より。蛭。崎。十。一。郎。照。文。と。喚。做。を。家。臣。を。関。八。州。遣。て。智。勇。全。備。の。士。成。を。く。  
 招。ひ。ぬ。其。の。折。大。塚。大。飼。犬。田。下。総。行。徳。あり。大。法。師。と。十。一。郎。思。ひ。ひ。ち。相。遇。す。て。  
 里見殿。の。息。女。を。伏。姫。上。の。犬。士。の。與。過。世。の。母。と。り。ゆ。れ。と。料。も。曉。得。る。首。の。徳。を。  
 る。そ。八。房。の。犬。の。事。金。碗。入。道。太。の。事。及。親。兵。衛。が。二。親。の。義。俠。横。死。の。事。ま。で。も。詞。急。迫



多く解示せし孝嗣の感嘆して、咱們扇谷家不在り、奸黨の仇を忘れて、一個も知音の友を、一高嶽の軍陣を、大阪、大山、兩勇士の意、衷と始り、听し、寛家、多し、心似り、知己、けり、と思ひ、今又、和殿の、話説、を、凡人、を、知、る、不、足、れ、り、水、原、と、尋、れ、ば、姫、神、孝、義、の、英、烈、も、自、然、と、生、れ、る、八、個、の、豪、傑、里、見、不、出、て、里、見、仕、る、宿、因、定、ま、次、び、一、安、房、の、四、郡、小、過、され、も、偉、き、造、化、の、妙、功、八、顆、の、靈、玉、八、個、の、良、臣、身、と、護、り、君、と、補、佐、し、て、武、威、八、方、小、赫、亦、久、後、ま、で、も、と、憑、心、の、外、に、と、繰、返、し、心、の、誠、を、親、兵、衛、と、慰、め、て、思、え、る、他、を、求、め、信、里、見、殿、仕、入、酒、家、一、尺、の、書、と、ま、わ、り、甘、く、和、殿、と、薦、め、ま、う、一、必、登、用、せ、ら、る、べ、い、安、房、へ、赴、け、り、と、一、孝、嗣、沈、吟、ど、と、を、非、如、不、德、の、君、と、も、扇、谷、家、の、父、祖、の、時、も、恩、顧、重、代、の、主、君、を、一、今、日、死、刑、と、免、れ、り、と、け、り、他、姓、仕、入、り、及、び、死、所、も、願、ひ、和、殿、の、從、者、と、做、り、て、そ、の、扱、く、不、伴、れ、大、阪、大、山、自、餘、七、個、の、大、士、達、小、對、面、し、和、殿、と、俱、し、那、人、々、の、安、房、の、参、り、仕、る、後、ま、を、幸、ひ、て、垂、果、れ、れ、我、身、吹、擧、ふ

預、く、と、左、も、右、も、音、意、不、依、ん、目、今、の、從、い、と、答、折、り、楚、然、と、は、定、方、を、投、て、來、者、中、此、は、是、別、入、る、と、這、茶、店、の、老、媪、を、引、続、け、り、考、嗣、が、引、続、け、り、段、筆、見、え、る、推、啓、を、投、て、親、兵、衛、の、見、々、含、笑、と、揖、讓、し、て、郎、君、前、面、岡、より、剛、才、か、た、ま、ま、甘、く、飲、奴、家、の、所、要、の、の、喚、れ、て、宿、所、へ、走、り、ぬ、り、程、店、うち、空、を、ゆ、り、一、小、好、を、せ、め、ひ、た、れ、兒、連、さ、る、も、茶、を、召、れ、一、飲、先、沸、り、て、ま、わ、り、と、吹、笛、會、拵、埋、火、撥、て、吹、起、せ、寃、木、の、煙、立、升、る、雲、霧、の、離、色、小、白、菊、の、衰、易、は、風、情、を、老、媪、と、考、嗣、と、相、々、親、兵、衛、が、袂、を、掖、て、大、江、主、那、と、ま、り、老、媪、が、面、影、に、御、白、我、が、必、死、と、救、ひ、一、假、大、刀、自、小、刀、肖、り、倘、そ、の、人、小、中、ま、と、う、ち、耳、を、指、し、示、せ、ば、親、兵、衛、も、稍、心、を、現、し、る、れ、聲、音、ま、た、毫、も、錯、つ、ま、定、不、似、り、故、を、ま、り、と、奇、と、潛、語、く、鼓、耳、の、姿、を、見、け、ん、老、温、の、徐、小、刀、を、刀、祿、連、ま、で、お、訝、り、あ、る、前、面、岡、を、河、鯉、手、の、危、命、と、極、合、り、一、別、人、を、奴、家、に、お、ま、り、孝、嗣、の、親、兵、衛、の、胸、に、潰、し、と、そ、の、と、な、り、呆、れ、て、為、も、長、視、て、在、り、と、老、媪、は、さ、と、微、笑、く



大江王は遭際初の對面を傳へ間知らせある理の河鯉腕子名をりたも所知くも  
 孝嗣家の政本を傳へかど名告れど孝嗣をるる作麼政本を誰るんと訝り向ひ城  
 近に登見小尻より櫃て原來忘れぬひ然然と具小告まらん大江王も所知くも  
 思ひ出あらば奴家の奴身後の城母後の政本を傳へかど孝嗣をるる悟て原來我  
 角の比大人の夜話小傳する故る影と躰を城母政本に依れども何れも再會  
 するに小訴る親兵衛我姓名を知られるも亦奇くも小口を餅て所も當下政本は  
 點頭又孝嗣を向ひかど喃和子這回奴家奴身を救ひ事の情と今ゆる説明さ  
 恥く面を折れぬは奴身の未生以前より奴家の忍岡の城内に牝牡栖馴る野狐  
 老ふ奴身の年二才の比奴家有身有りたも孝嗣は奴身の養父權佐守如大人は素より  
 忠義の士也當時忍岡の城預の頭人でもせりが那城内に在り又奴身の奶も慈悲深  
 く物を憐む本性をば馮心く思ふ間奴家牝牡の家小富來て篁子の下小栖れ人小見

られし知れぬ奴家の開里を子と産むる時又河鯉腕子の若黨小槻田和奈を喚做せあり  
 その性酷く殘心せし教生と好むる年の奴身の養父守如大人の君命より京都將軍家  
 へ使立あり小那和奈を政本と喚做せ奴身の城母と幾の間密通ありし折  
 病を推けて主の伴立より小那和奈を我雄狐の奴家と與ふ食物を求む夜々外小有一日  
 件の和奈を釣漁の地龍と牙合ると心もる庭小印を狐の足跡を見出ると這足  
 跡は猫より大に狗より亦像小へ這頭は狐の穴ありて開か通ひ路をあらんぞと尋  
 思とあるその日の夜鼠と麻油を煮て甲夜より庭小涼を掛け我雄狐を相て涼  
 けりと知るめり畜生の悲しみの香を披き心感ひて慾を禁むると要せ終る涼を掛  
 られ命と開里を預けり小程小槻田和奈を揣りて狐を合獲てその穴をうち咬ひ  
 皮を售れども飽をぬれぬ狐の穴のあべとぞ悄悄未獵る程小我子狐の穴に在りて鳴聲を  
 洩すて原來の篁子の下小栖る狐の穴のありて獵出く射て合らんと罵り噪て准









八代傳九郎卷三十四

女

文楽堂藏



八代傳九郎卷三十四

文楽堂藏



多く身單故の穴在り。程小和奈云。主家小在る。より。母情慾の方。方る。ければ。惜地小政木小艶翰とをり。謀合ら。夜小紛ま。誘引せ。て。走り。おけり。朋輩の奴婢們。ど。小井。と。知れる。もの。より。一。小奴家。を。り。豫。より。信。らん。よ。と。猜。たり。這。時。然。復。さ。む。の。孰。の時。を。期。と。思。ふ。當。晚。和。奈。と。政。木。が。迹。を。跟。て。行。小。十。住。より。去。向。遠。く。ぬ。竹。塚。の。邊。に。和。奈。云。が。乾。小。父。の。莊。客。あり。那。里。と。憑。き。姑。且。の。身。の。願。せ。ま。と。て。井。方。と。投。ぐ。の。を。奴。家。途。中。迷。く。瀧。野。川。村。へ。掖。て。來。る。左。右。問。を。細。路。を。奴。家。の。前。徑。の。山。家。小。化。て。他。們。が。前。後。より。兩。個。と。を。奪。く。立。頭。れ。盤。纏。と。遞。與。せ。と。喚。被。く。引。拔。れ。詭。き。刀。の。光。小。和。奈。三。政。木。の。吐。嗟。と。叫。び。路。と。討。め。く。逃。ん。と。る。步。下。暗。小。篠。原。折。く。月。の。雲。小。没。て。黒。日。と。別。ぬ。男。女。と。く。急。流。名。高。石。神。川。の。岸。踏。崩。一。滾。落。く。浮。り。沈。る。流。れ。が。俱。小。溺。れ。て。死。お。けり。信。て。も。奴。家。の。月。屬。の。怨。復。ま。と。と。ゆる。心。小。快。り。か。も。政。木。が。在。る。を。り。よ。り。生。死。婚。母。と。隸。ま。る。が。和。子。の。必。面。嫌。い。あ。て。その

乳を輒く喫あり。然るに和子の貧孃の心苦くおぼせ。是より五疳の病ると引出。ま。争。何。せん。和。子。の。奶。々。の。お。好。意。を。我。子。の。安。く。生。育。小。今。その。報。と。せ。む。あ。く。恩。と。思。ぬ。め。の。似。たり。子。母。の。大。泣。う。り。か。ど。乳。汁。今。る。餘。滴。あり。と。絞。れ。ば。よ。く。出。るか。今。宵。政。木。が。逐。電。せ。よ。人。の。知。ぬ。を。幸。ひ。せ。れ。せ。ぬ。術。あり。と。尋。思。く。その。曉。天。小。心。固。の。城。内。小。分。來。く。政。木。小。変。り。と。和。子。の。臥。簾。小。添。乳。と。あ。つ。臥。たり。けれ。東。人。御。夫。婦。い。へ。あ。ら。う。い。へ。の。うち。ぬ。び。ら。の。お。れ。一。家。兒。の。奴。婢。們。誰。も。か。も。政。木。が。逐。電。あ。る。と。知。る。況。和。奈。と。共。侶。小。石。神。川。小。滾。落。て。底。の。水。屑。小。り。あ。ら。う。と。後。ま。で。告。る。め。る。けれ。ば。奴。家。と。直。真。の。政。木。小。あ。ら。と。知。る。め。の。絶。て。ま。り。け。り。信。而。次。の。年。お。身。の。奶。々。の。血。塊。の。病。着。重。り。と。臥。ひ。り。よ。り。鍼。灸。茶。餌。の。效。驗。を。く。約。莫。半。稔。有。餘。あり。竟。小。身。故。り。ぬ。い。ぬ。奶。々。亡。る。り。ぬ。い。り。よ。り。和。子。の。い。ぬ。奴。家。を。草。ま。く。離。れ。ぬ。ま。放。ち。も。せ。思。愛。既。小。庸。常。る。ね。我。実。子。の。思。ひ。と。做。り。守。字。む。と。又。一。稔。有。餘。和。子。の。五。才。小。り。ぬ。い。ける。夏。の。日。の。ゆ。ち。南。向。の。小。坐。席。小。奴。家。小。和。子。小。添。乳。を。去。







故の奴家の老媪の妻なり。ここに茶店を置より往復の人の便を爲す。年米ありま  
けり。然る日毎に獲得の茶銭を以て見或の寒民の餓を施す。又這頭を溝壑深の朽損  
ねるの隙を以て奴家情地を獨木と架きて人の便宜をせざるを或の男女の情死を制め意  
見を加え慈を諭して故の收りも勘も或の困窮至極して縊れんと欲する者身は淵川投  
んとするを救ふ錢を取らう。且生活の便宜副誨を宅着と養せしむるを轉して  
歡びと做す。由りくゆりし病奴家。這陰徳を思ひ起ける。その日。今も迫て二十許年  
人の必死を救ひし。九百九十九名あり。その天意を稱ひ故の身毛年々白く。その  
清純と雪の像く尾の亦裂く。九尾の亦裂く。九尾の狐と云ふ近世の似而非物語。玉藻前  
事との皆惡狐との思ふれ。并に甚だ誹刺を九尾の狐の神獸。又九尾狐と稱する。瑞  
應編の明文あり。段成式が酉陽雜俎。天狐と云ふ。九尾あり。日月宮に来往し。陰陽  
洞達し。千里外の事を知る。天眼通するもの。奴家も修行の功德。因て稍その數入

る。あやうし。白毛九尾の形と備天眼通を以て。五十子の城に在る。其身の谷々守如大  
人。今茲正月廿一日。免れ死厄あり。折奴家その美を知る。救ひまかり思ひ。か命  
數既の海も定業。争何せん。本意を。まのまの。不嫁。又おん身。奸黨。毒  
悪。讒詐。中。れて。冤屈。の罪。死。促。され。白刃。頭。お。位。お。至。れ。り。今日。我。和。子。の。死。を。救。ひ。ぬ。  
奶の慈恩。お。報。ひ。ぬ。始。め。終。り。年。米。做。す。我。陰。徳。も。空。あり。と。尋。思。ふ。つ。這  
頭。お。身。を。着。属。の。野。狐。と。召。聚。合。て。計。畧。と。説。示。奴。家。の。即。越。後。の。長。尾。家。の。老  
主人。服。殿。お。身。を。棄。下。着。属。の。百。十。數。個。の。伴。當。打。捨。し。根。角。谷。中。三。竹。を。思。ふ。ま。つ。  
輒。お。身。を。救。合。り。ぬ。因。縁。都。て。か。の。如。然。り。年。米。人。の。死。を。救。ひ。ぬ。數。九。百。九。十。九。  
一人。七。千。の。満。ち。志。願。成。就。の。け。か。折。お。昔。字。育。ま。ぬ。と。和。子。を。救。ひ。ぬ。昔。恩。答。は。  
一。事。兩。用。の。鉄。く。ゆ。り。か。と。情。告。告。長。談。久。話。を。孝。嗣。つ。ら。く。听。果。て。感。涙。坐。お。吐  
む。ま。一。雨。雲。時。の。答。は。り。と。思。ひ。く。ら。嘆。賞。し。通。徹。妙。は。汝。の。方。便。儻。ゆ。ひ。し。と。云

八代傳九傳卷十三之五 十九 文要堂藏



か。我。総。角。る。り。比。親。小。所。言。汝。の。事。む。り。故。り。逐。電。を。往。方。へ。今。小。知。れ。ぎ。の。と。思。ひ。し。ら。い。か。思。ひ。死。や。の。身。非。人。異。類。を。賢。人。貞。女。も。及。ぶ。べ。死。陰。德。善。行。我。與。小。再。生。の。恩。あ。る。ら。し。そ。開。も。亡。母。の。慈。善。の。餘。德。世。に。復。活。を。幸。な。る。を。稱。え。る。感。謝。の。堪。ざ。り。一。粒。の。涯。の。ま。り。け。り。ま。の。時。ま。も。親。兵。衛。の。ま。り。又。頭。と。低。て。默。然。と。在。り。け。り。餘。の。親。と。更。り。て。政。木。狐。の。う。ら。高。び。て。物。千。載。と。有。り。ぬ。れ。神。通。と。靈。あ。る。和。漢。の。例。を。見。れ。汝。の。命。長。き。亦。怪。む。た。足。ら。ぬ。も。の。身。既。に。一。千。年。の。長。壽。は。追。ま。る。靈。狐。も。異。義。小。河。鯉。の。家。の。養。子。の。下。や。子。と。産。む。其。比。に。九。百。八。十。許。歳。を。一。縱。ち。の。身。の。異。類。と。も。物。老。死。に。經。紅。燭。有。身。の。正。有。り。か。ん。ん。然。も。ま。り。の。あ。る。ゆ。え。と。詰。と。政。木。の。所。の。言。を。宣。ま。る。と。ま。り。約。莫。天地。の。清。氣。の。稱。を。長。壽。を。有。り。ぬ。の。の。身。老。て。又。廻。り。百。歳。母。の。血。氣。復。し。て。情。慾。も。亦。始。小。異。と。ぬ。ぬ。奴。家。の。連。添。小。雄。狐。の。老。て。死。生。れ。又。外。より。入。敷。賢。人。の。來。ぬ。も。十。と。も。數。ふ。抑。狐。の。陰。類。を。群。居。せ。ぬ。の。免。れ。只。牝。牡。と。栖。る。と。の。故。小。唐。山。

か。の。文。字。の。あ。ら。は。し。狐。小。為。れ。狐。即。狐。の。義。也。群。居。さ。る。の。よ。り。取。れ。り。是。れ。も。要。を。教。育。言。ま。る。身。の。與。小。釋。迦。小。說。經。孔。子。の。語。道。に。似。し。ん。か。と。い。ふ。吻。々。と。う。ち。笑。へ。親。兵。衛。屢。點。頭。と。の。言。既。小。あ。る。ゆ。え。然。り。又。問。試。て。入。波。の。雄。狐。の。死。せ。比。と。る。靈。狐。の。田。地。入。り。ま。り。欲。多。情。と。割。に。怨。恨。の。林。也。慈。善。と。言。と。せ。と。い。へ。後。暗。記。の。い。ま。は。あ。へ。亦。小。河。鯉。生。を。救。ん。と。と。い。ふ。形。貌。と。變。化。し。て。谷。中。二。竹。之。鬼。也。是。機。變。の。術。也。機。變。の。神。佛。の。憎。む。所。也。事。小。邪。魔。鬼。の。入。り。所。以。惡。機。變。の。心。報。也。恐。慎。む。ま。り。靈。狐。の。所。の。似。け。る。と。を。也。且。汝。が。河。鯉。生。未。贈。り。る。兩。刀。の。原。河。鯉。の。什。物。と。も。既。に。没。官。せ。れ。惜。地。小。奪。合。り。ま。り。ま。り。開。小。竊。盜。の。所。為。小。似。て。快。ら。ぬ。所。也。の。も。亦。是。故。也。飲。と。詰。れ。政。木。の。答。笑。て。理。論。不。成。然。る。と。も。機。變。も。私。怨。の。與。也。或。母。の。與。君。父。の。與。也。の。與。也。と。い。ふ。罪。を。因。人。の。枉。死。と。救。り。一。機。變。の。佛。說。也。善。巧。方。便。孔。子。の。教。も。直。を。舉。て。父。子。の。為。小。隱。子。も。亦。父。の。為。小。隱。也。直。と。其。中。に。在。り。と。の。れ。小。意。以。爲。奴。家。が。詭。計。の。恩。義。の。與。で。は。る。同。神。佛。也。與。







寛魂の事親兵衛一毫の行はるるより那妙椿が幻術より里見殿を疑せし事  
 顛末を具告す。稻村が遣一のりから里見殿と听ゆ。慚愧後悔大なるを發  
 崎十一郎照文と姥雪與四郎們を使とて快親兵衛を召かして素藤妙椿們を對治せ  
 ざる折をも餘の士大夫の在外をも涉獵せ共侶を招に聚合んと欲し評議區々  
 龍田の城内にも亦鷓鴣の奇異あり老侯那意を精一の隨即照文と與四郎を  
 稻村の城遣一のり君臣の便宜とて照文と與四郎の君侯の仰と奉り去向を異し  
 船路より益可不起行の事の趣の餘一事も送漏さるる崖略を解示して發崎姥雪四個  
 使价の稻村の城と立去りて便宜の浦より飛出を去ける遠もあらず昨日の事  
 藤と拍鳴りし奇の妙之汝の忠告倘の言と听さるる我の他御と偏歴して再叛の賊  
 素藤們を討捕る便りも思ひしは幸多ると連の稱をく已まらけり。

第百七回 恩小答く化龍升天を示す  
 津を向く犬童風濤小悩む

登時大江親兵衛の孝嗣あうち向ひ河鯉主今听れど上總亦復賊乱あり。腹  
 立一に館山より番士們が阿容々々と果敢る城を攻陥され一個の敵小生拘りし兩  
 個の逃る不覚さ又歎いた我君の疑ひを解せられ急小仁を召りへて又素藤を伐  
 せんと欲りぬと听ゆる。一條の面目あり畢竟我身の枉危の妙椿より妖尼の幻術  
 より出るを我思慮淺くて今も悟さず又我犯あり罪多しと解れて君侯の醒ありし  
 伏姫神の眞助あるは是に至りて肇て知り咱們富山在り一日伏姫神の示現ありて  
 知る正のるより始は劣る我智と思ひ馮む仁字の靈王も裏小自然と土中と出て  
 我懐小入りけるを訴まると由多くて影護く思ひ不開も那瓶を發れ無うとぞ知召  
 る異日稟一解く不證據あり。恰とい恰と云造化の默契妙なる遮莫素藤が復







龍の路の蛇を知らぬ那妙椿が幻術を破りて捕捕ま欲せ先他が来歴出  
 処を具知せぬあるべしとて親兵衛飲ひてそ亦酒を死環説るん快を聞き  
 欲しけれと忘て膝を找れり孝嗣も亦うち合笑れて俱耳を傾ける登時政水は鼓  
 低めて然る又一條の昔話と云へて大江主の豫より傳せぬと思ひ合ふゆも  
 抑安房國長掖郡富山の麓より程遠くぬ村落の犬懸と喚做き寒村ありそ  
 村這名を沿り以前文安四年丁卯の秋伏姫七歳少きぬ比件の村の貧し  
 民の字を枝平と喚るが年来畜ける牝狗ありけり這秋その狗見ると産ける小只一隻子  
 中く牝狗を生れてしまふ幾日も歴る一宵宵母狗の狼小吠れてけり離狗の目  
 た小開る蒙るる比るれは養ふべくもあらばり奇し夜毎小牝狸の富山の方より出  
 来て乳を離狗の乳を食ふ餓も死する事ありて最大にきり一時の事やて瀧田徴れ  
 義実王子寵養せられ八房の天即是きも事な件八房の毒婦玉梓が後身

は里見小害あるものなり復行者の利益を玉梓が悪業終つて解脱し八房の天も  
 亦伏姫讀經の功德ありて俱々菩提入るものなり初八房の天と云ふは狸見あり亦  
 玉梓の餘然黄縁りけるは是のいも得脱甚今も里見殿と怨めり当初  
 義実主八房の天と見あり折狸見の乳を食ふ養れり事任々と听ひて字書不  
 狸の天後里見後者るれは是里見の天と云ふは因縁ありと宣ひ小只大と云ふ鐘  
 愛して狸の事い竟れ向れり狸見の亦その功をて狐のてく穴祠を造りて祭らんと  
 思ひ小然る沙汰るれは喫醋の堪む富山を立去りて上總國夷瀨郡普善村の  
 程遠く及諏訪の神の社頭より老樟樹の榎の栖ひて那里に在ると三十餘年便宜  
 もあつて國王御父子小崇と做さんと思ひ玉梓が餘然お惹る是宿因の悪心なり  
 憊而甚田素藤が兩個の愛妾と喪ひて哀慕鬱悒不堪きり折他のその虚中漏入  
 する八百比丘尼の綽號と冒し妙椿との女僧の变化して遂に素藤と喚誘する非



分の婚嫁整く。素藤酷く國王に恨ま。叛逆龍城兩度西軍を克今日。
 初妙椿狸見。神女の威靈を憚り。軍陣中。素藤們が死に。
 遠く追放せられ。後妙椿の亦我妙術にて。義成主と大江の胸に。
 身を救ひ。と実。後説語り。素藤們の。思ひ。國王の。
 身の慈善。因。とせ。下過。熱。微。開。小。人。の。本。性。の。國。の。安。危。を。定。る。
 最も大事の所。良將勇士。胆。意。妖怪。奪。
 欺。陷。信。奴。家。の。思。ひ。然。妙。椿。那。反。回。の。
 邪術。身。他。郷。退。け。敢。又。憚。充。徒。の。軍。師。を。做。り。寄。隊。破。
 風。起。て。沙。を。飛。樹。を。覆。も。勢。當。べ。く。嘯。く。虎。よ。り。烈。かり。是。亦。
 然。所。以。他。の。雍。龍。の。王。と。持。り。王。の。絡。の。腹。より。頭。れ。方。宝。貝。上。古。無。仁。天。皇。の。
 宛。時。丹。波。園。素。田。郡。の。入。と。す。一。雍。龍。が。家。飼。け。犬。の。名。と。足。往。と。喚。做。ま。

這大一日。絡を見て。立地。噬殺。去。絡の腹内。八尺瓊の勾玉あり。
 よと訴。京。と。玉。と。朝。廷。不。獻。り。返。這。玉。今。石。上。の。神。宮。あり。と。書。紀。無。仁。紀。小。載。
 られる。無。仁。帝。の。宛。時。も。今。後。土。海。門。院。の。お。至。て。千。二。百。許。年。世。の。戰。國。あり。悲。
 任。珍。奇。の。神。宝。も。馬。蹄。の。塵。に。埋。ま。れ。有。と。知。る。人。稀。り。妙。椿。狸。見。が。見。出。し。て。
 只。顧。愛。玩。秘。藏。も。初。雍。龍。が。無。仁。帝。へ。獻。り。け。東。西。を。名。つ。け。雍。龍。の。玉。と。
 の。絡。と。狸。の。等。類。も。穴。居。と。雨。を。避。け。風。を。知。る。者。多。れ。昔。も。今。も。皮。を。鍛。匠。の。
 吹。草。用。ひ。ら。風。と。出。ま。の。理。あり。妙。椿。件。の。玉。の。呪。文。と。唱。て。勁。風。起。ま。極。め。効。
 験。あり。遮。莫。那。身。の。絡。も。等。一。の。狸。見。を。信。す。心。を。忘。れ。て。足。往。の。天。小。殺。ま。れ。絡。の。腹。
 より。出。玉。も。賊。徒。と。資。け。寄。隊。を。破。る。宝。貝。も。後。竟。小。大。士。の。對。治。せ。る。死。兆。を。
 る。悟。ら。ま。宣。不。鳴。呼。の。所。初。が。然。狸。見。の。智。淺。く。野。狐。子。及。ま。是。等。小。由。も。知。
 ら。れ。信。の。身。他。を。對。治。す。件。の。玉。を。獲。め。後。小。必。用。る。と。あ。え。等。閑。を。ま。め。妙。椿。



られたる者もあまやう。さてまたたててある。い。おめい。あま。が未歴出外の崖畧を信じて又館山城まらち入る初の度と同たが非如身身の武  
勇と。素藤の緝捕易くとも。妙椿の少知れて他を走。争何せん。信  
れが敵不知る。情入と妙とま。折情入る。館山城の副門の箇様々。の  
目標あり其処の昔の城主の地道と。一。條の脱路。後千虫の石とて。前後の  
口と塞。今開と知れる。人罕。死身。萬夫の。力。除。容。易。其首  
より入ると欲する。折箇様々。の。筋力。用。出。入。極。て。隨。意。る。  
ん。先。後。堂。不。赴。て。妙。椿。狸。見。撞。見。の。力。の。征。夷。の。折。箇。様。々。の。信。々。の。  
做。妙。椿。が。邪。術。忽。地。破。れ。他。の。腹。心。黄。縁。の。玉。梓。が。餘。冤。解。脱。せ。ん。然。り。  
妙。椿。が。摠。身。朽。木。の。倒。る。像。本。形。と。あ。る。則。是。玉。梓。が。臨。終。の。惡。念。塵。も。住。め。を。  
煙。の。似。く。滅。亡。て。後。々。も。出。る。見。の。證。据。を。併。役。行。者。の。利。益。を。測。る。よ。り。  
あ。る。真。助。と。仰。は。る。あ。の。餘。の。告。も。死。身。の。智。計。武。勇。の。功。あ。る。と。疑。ひ。り。

親兵衛らち。且。感。且。終。勇。氣。日。屬。彌。増。腕。を。憶。振。り。定。め。約。々。有。縁。の。  
忠。告。と。機。を。查。一。隱。微。と。明。言。皆。意。表。出。る。と。听。く。我。身。今。富。山。在。り。伏。姫。  
神。の。示。現。教。諭。を。兼。る。小。異。る。老。媪。の。素。是。異。類。と。あ。る。智。廣。大。菩。薩。の。  
興。趣。を。明。教。を。從。さ。る。後。へ。と。又。孝。嗣。の。政。本。の。老。媪。の。向。い。て。  
具。る。敵。地。の。案。内。側。聞。せ。我。亦。大。江。主。後。千。里。と。ま。る。蒼。蠅。の。驥。尾。小。附。く。功。  
あ。る。又。か。る。末。て。耐。入。軍。少。の。程。を。答。ね。が。の。政。本。の。ゆ。え。否。と。あ。る。家。の。年。末。の。陰。徳。  
功。課。よ。り。天。帝。の。恩。教。と。兼。り。け。る。狐。龍。の。做。り。は。今。升。天。下。界。在。る。と。  
遇。ふ。別。の。時。を。告。れ。と。告。る。孝。嗣。の。何。ぞ。何。ぞ。の。狐。龍。の。做。ら。  
る。や。と。問。へ。又。親。兵。衛。の。俱。小。眉。根。と。ち。頻。早。め。我。聞。く。龍。の。神。物。之。和。漢。今。昔。世。の。人。々。  
その。名。を。知。れ。る。形。と。見。ん。然。る。と。唐。山。の。史。傳。の。昔。秦。龍。氏。の。龍。と。屠。り。后。羿。龍。と。射。る。の。  
説。の。是。と。抱。朴。子。の。蛇。龍。と。一。種。の。蛇。と。千。載。と。歷。年。の。化。と。龍。の。做。る。い。れ







龍と能化し。龍と化れる。この狐の西方の生氣と宣して生れり。因て全身白色  
 あり。衆と遊ばせ。近處の狐と居る。驪山下の託を。千餘年後。偶雌龍と合り。上  
 天を知らず。遂に命と龍と為せり。亦猶人間の凡夫なり。聖人成るを。且と言訖て滅  
 免と諳記の随誦を聲清亮なり。跌を。理義分明。不怪えり。  
 作者曰狐龍の事。格致鏡原卷の八十八。獸類狐怪の部也。又奇事記に援て  
 之を載り。作者の傳り設けし。昔より和漢の博士龍を辨する者。多し。狐龍  
 及ぶ。見を故。亦復これと合し。見べし。  
 登時大江親兵衛の孝嗣と共侶。しばらくと所果。且羞且然。政木の老嫗。演  
 賢者の一字の師。をも。閑思ふ。汝の素是異類。博識視聽を  
 敬。我。及。所。又逢。詞敵。今遇。今別  
 別れ。遇。薄縁。慨。不。俱。孝。慨。嗟。

昔の姤母假。王從けり。又我再生の因。人との思ひぬ。その勢。い。盡  
 盡る。値遇の縁留め難。京別の涙の雨。雲を召ぶ。龍の身を。果。千  
 尋底成。大洋。潜。後長。命。三。終。尚。春。折。母。小  
 訪。悲。和。子。女。々。一。仁。義。德。澤。世。稀。那。明。君。仕。名。坂。竹  
 俊。傑。と。友。垣。結。び。封。助。と。仁。義。德。澤。世。稀。那。明。君。仕。名。坂。竹  
 薄。誌。され。家。今。三。後。上。總。困。夷。瀟。郡。雜。色。村。石  
 降。石。の。形。蟠。龍。似。見。我。成。果。と。知。願。大江。親。兵。衛  
 主。儘。和。子。の。上。直。不。過。向。胆。の。心。足。幾。番。叱。懲。杖。と。り  
 看。も。武。丈。の。方。道。今。時。來。名。殘。惜。外。面。走。り  
 出。松。枝。を。掛。け。肉。と。立。候。と。見。れ。蜚。鳥。の。似。く。身。と。翔。ら。程。近。不。忍。心。





八代車し屏風三三三四

共九

文安堂藏



ちすの  
池水と巻騰  
あり  
あき異龍洪  
雨を降毛

政木茶店親兵衛復興孝嗣  
おたけのりてんかき  
おたけのりてんかき

八代車し屏風三三三四

文安堂藏



池へ突と跳入りけり。時小雲湧り雨降そ。勅風天地を黒く別ぬ震動  
 雷電常闇ふ似る。中龍火の光を向上れば白龍雲間頭れて首を伸つ尾を  
 垂れり。巻を騰り池水の雨とる。疾死勢ひ蓮葉断離れ細鱗放下させ  
 足下小踊もまくりけり。折親兵衛と孝嗣の狂風暴雨小老媪が茶店の葭賣  
 登見茶器もも東西一箇も吹攪れ雨を避る小樹を松の樹蔭身と  
 倚せて俱小雲存る。奇一死の最中劇し大雨の只這松の四下の一滴も降  
 ざれば幸ひわぐ濡もせ。衣も濕吹氣と受され。亦狐龍のあらありての所  
 べと感嘆。雙立ち在りける程。姑且一雲斂り雨歇て風雷餘波なり。長  
 此四月の天晴。旦夕夕陽西尚残。然親兵衛も孝嗣も狐龍の奇特疑ひ釋  
 送。他が噂を。路の乾く等程。親兵衛備を。河鯉生剛才化龍の升  
 天と觀し思合。事そ昔年嘉吉の聞戰破れ。結城の城郭没落の折我老

候義實朝臣當時尚弱冠あり。里見又太郎と喚れり。選訓に従ひ九死を免と  
 氏元貞の主従三騎安房と投て走りぬ程。落城より第三の黄昏時侯相摸  
 團御浦郡箭採の浦船と討め。津を急ぎ。折白龍海底より頭れ出て南と  
 去。騰り去れり。恙る祥瑞。義實安房。赴。幾日。あ。神  
 餘が與。義兵を聚合。逆臣山下。定包。誅戮。その後。朝夷郡。平館。麻呂。小五  
 郎。兵衛。信時。約。背。討。夷。最後。安房。郡。館。山。の。城。主。安。西。景。連。と。戦  
 克。て。景。連。頭。顛。と。授。け。り。義。實。安。房。と。平。均。四。郡。の。主。あり。ぬ。一。條。の  
 舊。話。酒。家。富。山。在。り。時。伏。姬。神。の。示。現。粗。知。る。有。悠。今  
 我。們。の。孝。嗣。和。殿。舊。縁。有。狐。龍。の。升。天。と。目。撃。し。且。其。龍。を。辨。論。去。け。亦  
 新。舊。君。臣。一。致。の。事。且。義。實。朝。臣。の。箭。採。の。浦。龍。の。升。天。を。見。ぬ。嘉。吉。元  
 年。四。月。十。八。日。の。夕。と。秋。夕。又。我。們。が。狐。龍。と。見。ぬ。今。日。文。明。十。五。年。四。月。中。の。二。日。り



その日聊違へども共の中旬をその月は皇同し夏の暗合是のころに昔年我老侯の討滅  
あゆむに安西三郎大夫景連の安房の館山の城主なるは今の思臣大江親兵衛が討  
果さき欲し身叛賊甚毒田素藤の上総國夷瀟瀟館山の城に在り安房と上總  
と異なるれども共の館山と喚做したる城の名も亦同ト裕と思ひ恰をありの造化の照對あり  
似たり事吉兆とるを死致兩國河を快退れ船と央て上總へ渡え和殿の意見  
其麻をちと問へ孝嗣再議不及を所くごは前後同瑞討論合考寔ありあり。這  
回大功疑ひる一卒も俱れをんとく東と投てて立立ける介程大江親兵衛の孝  
嗣を相伴ふ兩國河原へ赴く程那里の雨のゆるぎける大地の乾る隨ゆる歩の  
運びお障りなれば思ひよりもて來おけの故ら日長は四月の天の暮んとく暮れ船  
這兩國河の岸邊を船公の宿所呼んで悠々と相譚ふ船公は上總へいんと  
欲りしもの只今の風も強く潮も亦宜くを意にお這真夜半必追風あるの波の

上のおりも船で世渡る我々も自由なるが常なれば急々とて争何いせんせんとせらる。  
奥の坐席あり那里で甘坐れぬと早の商量数す親兵衛心焦燥て外も船公を  
やと思へ船で立去り又孝嗣と共侶の便宜の出船とて皆の事と相似く困り果て  
亦初の長が宿所かへり漁村の柳風小麻非はて蓑衣乾去門の夕日影若屋の煙天小  
滅く友呼ぶ鷗浪小浴を或は甘兼葭の戦ふ処魚と踏む白路鷺見れ一葉繫糸の楳の頭  
あち羽を曝き鷄鳴存の長汀弓の像く入江に續け浮洲似たり水濤建の仰て西  
南を眺むる夏の富士のまを装と更ぬき遙く東北を省れ翠の筑波尚霞を残り  
武総兩國の都會あり海船多く猫と却し商魚那遠軒を比て世渡り易に福  
地をんありけり又這河邊の三觀鼻と喚做き出崎あり什麼何名由米を這名  
あると原る小看官知らる所あり約莫這水際小翹て規ると死の右富士左の筑波前川の  
葛西の曠野まで杏洲とく障るの多く只一覽を三箇の眺望あり因て土人字しく二



觀鼻と唱へる。自昇の即方言也。猶出崎と云ふこと。然りまの玉崎の千里鏡と貸ま茶店  
 あり。飯と酒と粥と小店ありて。邊鄙に似げ多く執闘ひる。折々人許に立聚會。蠟見の  
 甘に附くが像。親兵衛と考嗣。今這出崎を過る程。并に那るやと。牙心と云ふ立  
 寄て。稠人を檢分は。找て近づく見ふ。主僕と云ふ。老壯兩個似而非技。て人を  
 立せ。之く膏茶と賣ま。欲する。逆旅經紀人。中。年齢六十をり多らん  
 と云ふ。東人。年歳二十有餘。從者。王僕俱。遠山形。漆木綿の夾衣。ち  
 披りて。帶とせ。白袴の。犢鼻褌と高く。引結ひて。跣足。雙立。地。土苞。不  
 像り。天朝。摘力。鼻祖。野見。宿祿。家秘。神方。撲傷。折損。相瘡。妙菜。萩野。上風。相傳  
 精製。之。千言。と寫。る。幟形。る。揉紙。の。招牌。を。真砂。地。推植。て。寄。來。人。を。ち  
 畢竟。這。逆。旅。紀。人。任。地。人。を。稠。其。多。技。を。做。ま。思。あ。ん。の。次。の。回。鮮。分。を。聽。ね。か。

南總里見八犬傳卷十三之十四終

九編三

みまてし内

十三ノ四

萩野

勝名院



